

アメリカ(史)研究との出会い

上智大学外国語学部英語学科

小塩和人

pweb.sophia.ac.jp/oshio/

<https://anglesjournal.org/2017/09/18/faculty-spotlight-professor-oshio-a-specialist-in-us-history/>



出典

SOPHIA

上智大学外国語学部シリーズ

新・地域研究の
すすめ

英語圏編

2007

上智大学外国語学部
英語学科

pp.87-108



<https://dept.sophia.ac.jp/fs/english/wp-content/uploads/2014/01/27d5256d28e9ca11ed648414eafaed61.pdf>

概要

- はじめに
 - 「危機的アメリカ研究」と主観性
- 私とアメリカとの遭遇
- アメリカ(史)研究の眼差し
- 日本と上智とアメリカ学
- おわりに
 - 「至論」から「試論」へ、「受信」から「発信」へ



アメリカ研究の危機

- アメリカ合衆国（以下アメリカ）を研究
 - 文化や生活習慣が溢れる
 - 関心が希薄になる
 - メディアによる否定的報道
 - 排米（⇔ 拝米）

亀井俊介『アメリカ文化と日本』2000



学問における主観性

- 客観性の「装い」をまとう
 - 研究は影響を受ける
 - 「パラダイムシフト」(トクーン)
 - 認識の主体である自分を相対化
 - 他者と比較、認識の多様性



ヨーロッパ ↔ アメリカ

- ***Chicago at Carnegie Hall*** (1971)

“If we want to have the whole world right
/ We got to put up a fight / Can't go
around killing – and contradicting
ourselves / We gotta do it right – within
the system”



アメリカンフットボール



アメリカ(史)研究の眼差し

- 17世紀ニューイングランド(Wブラッドフォード)
 - 選民意識と歴史意識
- 19世紀末の「フロンティア学説」(FJターナー)
 - 辺境で生まれ変わる文明
- 冷戦時代の「アメリカ例外主義」(Lハーツ)
 - 自由主義のみを保持する特異性



日本と上智とアメリカ学

- 明治時代 普遍のヨーロッパと特殊のアメリカ
- 冷戦時代 アメリカ学会
 - 日米友好と学問導入
 - 民主主義発展史 ↔ 非民主化・海外支配
- 1958年 上智大学外国語学部
- 1987年 アメリカ・カナダ研究所
- 2014年 北米研究コース



おわりに

- 大学で論じられる事柄は「試論」
- アメリカ(史)研究は時代と共に変化
- アメリカ(史)研究に「私達らしさ」は？
- 「知の受容者」から「知の創造者」へ

